

---

## 編集後記

---

数年前、インスタントコーヒーがレギュラーソリュブルコーヒーという名称に変更された。インスタントコーヒーは1938年にネスカフェが開発し、1952年に『コーヒーブレイク』という言葉によってコーヒーの消費量が爆発的に増加する。これがコーヒー界のファーストウェイブである。

1966年にアルフレッド・ピートがカリフォルニアのバークレイに『ピーツ・コーヒー&ティー』を開店し、その後、そのスタッフが『スターバックスコーヒー』を創業する。これがセカンドウェイブである。

そして2002年にカリフォルニアのオークランドに『ブルーボトルコーヒー』がオープンし、コーヒー業界の雑誌にサードウェイブのワードが使用される。

このようにコーヒー業界においては、より良いコーヒーを求めて3回の変革が起こっている。では東洋医学の業界はどうだろう。

室町時代に田代三喜が伝えた李杲・朱震亨の医学（李朱医学・後世派と呼ばれる）に対して、江戸時代、名古屋玄医が『傷寒論』・『金匱要略』を重視した医学（後世派に対して古方派と呼ばれる）を推奨するなど様々な学説が生まれた。これが東洋医学のファーストウェイブといえる。

しかしその後は、江戸幕府の終焉、大東亜戦争の敗戦と業界を取り巻く環境は激変しているが、自らが自らの世界を発展させようとして生じたウェイブはない。そしてそれは今も何ら変わらない。

日本東洋医学研究會は、東洋医学のセカンドウェイブを起こすために発足した。その軌跡がこの研究会誌である。

光は見えた。

令和元年 12月吉日

日本東洋医学研究會会長 松本 和久

---

日本東洋医学研究會誌 2019 vol.5

編集・発行	日本東洋医学研究會誌 編集委員会
発行日	令和元年 12月 21日
発行者	日本東洋医学研究會

---